

言葉を大切にし、自律的に学ぶ国語科教育の実践
—単元「仕事のくふう、見つけたよ」の実践を通して—

徳島県阿波市柿原小学校教諭 林 真里奈

1 はじめに

本学級の学習者は、好奇心旺盛で何事にも前向きに取り組める者が多い。特に3年生になり新しく始まった社会科や理科、総合的な学習の時間において、探検や観察をしたり、また地域の良さを知り地域の人と関わりをもったりすることに喜びを感じ、意欲的に取り組んでいる。それらの学習をしていく上で、文や文章を書く機会が多くなっており、自分の考えや調べたことを伝えたり、積極的に書いたりしてまとめようとする学習者が見受けられる。一方で、書く活動に苦手意識をもっている学習者や、書きたいことがあっても何をどう書いたらよいのか戸惑っている学習者もあり、書く意欲や技能に大きな個人差があると感じている。

そこで、教科や活動が広がり、学習内容がより豊かになった3年生の今だからこそ、「書きたい」意欲を高め、書くことへの抵抗を少しでも減らすことのできる学習の場を創出したいと考えた。また、書く活動を通して身に付けた「伝える力」や「自信」は、他の様々な活動に生き、学習を充実したものにすると考えた。国語科を総合的な学習の時間や社会科と関連づけ、調べた情報を他者に伝える活動を通して、伝えようとする意欲を高め、相手意識をもち、情報を整理して伝える力を育てたい。本単元「仕事のくふう、見つけたよ」の学習では、伝えたい内容を選んで、報告する文章にまとめる過程で、協働の学びを通して、様々な表現に触れ、よりよく伝わる書き方ができるようにしていきたい。そして、友達や家族から感想を受け取ることにより、表現することに対する達成感や満足感が得られるようにしていきたい。さらに、友達の発表を聞くことにより、言葉の学習を通して、様々な仕事があること、その違いや工夫に気付くこと、視野を広げ、考えを深めることができるようにしていきたいと考えた。

2 研究の方向

- (1) 書く意欲を高めるような題材の工夫。
- (2) 言葉による見方・考え方を働かせ、書く目的や相手を意識した報告文を書く指導の工夫。
- (3) 書く活動における個別の学習を進めながら、友達と情報を共有したり自分の学びを深めたりする協働の学びになるような指導の工夫。

3 研究の実際

- (1) 書く意欲を高めるような題材の工夫。

① 主体的に取り組むことができるような活動目標の設定

本単元の活動目標は、「発見！！仕事のくふう！レポートを作って紹介しよう！」である。学習者が、発見した仕事の工夫を報告文にまとめたり、学年の友達に発信したりすることにより書くことの楽しさに気付くように取り組ませたいと考えた。そのため、総合的な学習の時間や社会科見学を関連付け、学習者にとって身近な仕事にふれ、実感を伴って選択できるようにした。学習者の中には、地域で活躍している家族の仕事について選択し調べている者もいたり、学校生活でお世話になっている養護教諭について調べていたりする者もいた。また、地域の図書館にも協力していただき、豊富な図書資料から必要な情報を進んで集めることができた。その調べた情報やインタビューしたことを集めたファイルを作り、活動中に何度も見直しができるようにした。学習者は実際に組み立てメモや報告文の作成中に何度も見返すことにより、更に詳しく深まりがある、自分だけの報告文に仕上げることができた。



〈町探検 柿原ふれあい会館の見学〉



〈柿島レタスを育てている農家の方の指導〉



〈社会科見学 スーパーマーケット見学〉



〈吉野笠井図書館の方の話〉

② 友達と報告文を交流し、自分の考えを深める活動

本学級には、書く活動に苦手意識をもっている学習者や、書きたいことがあっても何をどう書いたらよいのか戸惑っている学習者もいるため、「書くこと」への抵抗や苦手意識を減らしたいと考えた。その上で、書く活動を通して身に付けた「伝える力」や「自信」を、他の様々な活動に生かし、学習を充実させていきたいと考えた。そこで、本単元では、調べ学習や組み立てメモの作成、報告文を読み合う時間など、グループで活動し、意見を共有する時間を設定

した。友達と意見を交換する活動を通して、同じ職業でも違った視点から工夫を発見することができた。また報告文を読み合う活動では、称賛する言葉をかけてもらうことや新たな視点に気付いたことを伝え合うことにより学習者の達成感や満足感を高めることができた。



〈ペア学習〉



〈グループ活動〉

- (2) 言葉による見方・考え方を働かせ、書く目的や相手を意識した報告文を書く指導の工夫。
—国語科「仕事のくふう、見つけたよ」の実践—

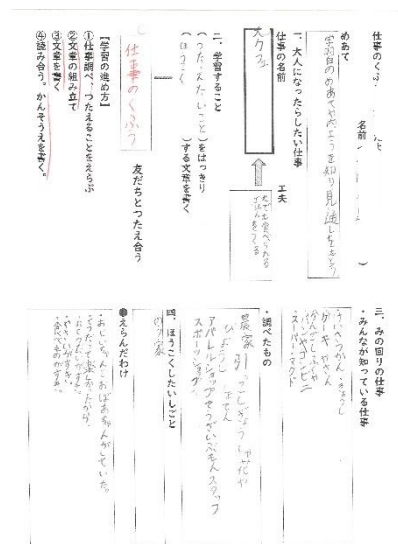
教材「仕事のくふう、見つけたよ」(光村図書 3年上)は、興味のある仕事を選び、その仕事の内容から工夫していると感じられた事柄を選択し、報告する文章を書く内容である。ただ、調べたことを報告する文章を書くだけでは、学習者の興味・関心は薄く、書く学習活動への意欲の継続が難しい。そこで、「学習者が報告したい。進んで書きたい。」と主体的に活動することができるよう、調べた報告文を友達や家族に紹介する単元を構成した。

以下、授業の実践では、表記が実際と異なるため、指導案に沿って説明する。

- ① 第1次 身の回りの知っている仕事名や知りたいと思う仕事を共有し、報告書を作る計画を立てる。

学習者が活動に意欲がもてるよう、「町たんけん」や「社会科見学」でお世話になった地域の方を紹介した。

学習者が身近に関わっている方をモデルにすることにより、仕事の様子を想像することができ、活動の見通しを立てることができた。また、職業についてグループで調べ、一人一人が報告したい仕事について報告文を書くことを伝えた。





② 第2次 相手や目的を意識して必要な情報を集め、その上集めた情報を比較したり、分類したりして伝えたいことを明確にして報告文を書く。

ア 身近な仕事について必要な情報を調べ、メモに書く。

学習者が調べようとしている仕事については、本や仕事図鑑、ICT 機器を使って調べた。自分たちの生活と関わりのある仕事を選んだため、意欲的に調べていた。職種によっては、社会科見学や総合的な学習の時間に作成した「アイラブマイタウン」の資料をもとに必要な情報をまとめることができた。学習者の中には、家族の仕事を選択している者もいた。メモには、「仕事の内容」「仕事をしていて良かったことや大変さ」「工夫」について調べたことを書いた。

☆仕事についてしらべよう☆

名前 ()

①えらんだ しごと

農家

②調べて わかった

③調べた ほうほう (インターネット・本)

☆仕事についてしらべよう☆

名前 ()

①えらんだ しごと

ケーキ屋さん

②調べて わかったこと

③調べた ほうほう (インターネット・本)

☆仕事についてしらべよう☆

名前 ()

①えらんだ しごと

ケーキ屋さん

②調べて わかったこと

③調べた ほうほう (インターネット・本)

☆仕事についてしらべよう☆

名前 ()

①えらんだ しごと

ケーキ屋さん

②調べて わかったこと

③調べた ほうほう (インターネット・本)

☆仕事についてしらべよう☆

名前 ()

①えらんだ しごと

ケーキ屋さん

②調べて わかったこと

③調べた ほうほう (インターネット・本)

イ 仕事について調べ、もっと知りたいことや疑問に思ったことをインタビューしてメモに書く。

前時で調べたことをもとに、個々に出た「さらに詳しく知りたいこと」や「疑問に思ったこと」をインタビューし、聞き取ったことをメモにまとめることができた。学習者自身が家族や養護教諭、給食センターや図書館で働く人、スーパーマーケットやお菓子屋さんへインタビューし、さらに詳しいメモを作成することができた。



〈給食センターの栄養教諭・調理員〉



〈スーパーマーケット〉



〈書道教室の先生〉



〈吉野笠井図書館〉



〈養護教諭〉

ウ 見つけた仕事の工夫の中から友だちや家の人に伝えたいことを選び、組み立てを考えて報告文を書く。

○組み立てメモを書く。

「調べて分かったこと」や「インタビューをして、仕事の工夫を見つけ、報告したいこと」を取捨選択し、「組み立てワークシート」に整理した。「はじめ」「中」「おわり」と色分けしたワークシートを使用し、それに合う付箋を活用した。学習者に「短く、簡潔に書くこと。」を伝え、パワーポイントを活用して例をみせ、自分で考える手立てとした。





組み立てメモをグループで共有する時間を設定し、気付いたことを伝え合った。

仕事のくふう、見つけたよ（組み立てメモ）

名前（ ）

☆題名

ケーキ屋さんのおいしいケーキを作るための工夫

組み立て	内よう（短く・かじょう書き）	
① 調べたきっかけ やその理由 はじめ	「ケーキがおいしい」といふ人から、ケーキ作りが好きだから、物を作っているのが気になるから。 「ケーキ作りが好きだから、物を作っているのが気になるから。」	
② 調べ方	本で「調べ方」をみた。→ たていさんへのインタビュー	
③ 調べて分かったこと 中	分かったこと 空いた時間でクッキー、ビスケットを作ったりして工夫をしている。 おいしいケーキを作るためには、材料をきよく入れたり、生クリームをたっぷりつける。	考えたこと おいしいケーキを作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー
④ まとめ おわり	空いた時間でクッキー、ビスケットを作っていることが分かった。 たていさんへのインタビュー	おいしいケーキを作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー

組み立てメモでは、分かりやすいように付箋の色を変えて書き込むようにした。付箋を活用することにより、内容の順番なども考える学習者もいた。

仕事のくふう、見つけたよ（組み立てメモ）

名前（ ）

☆題名

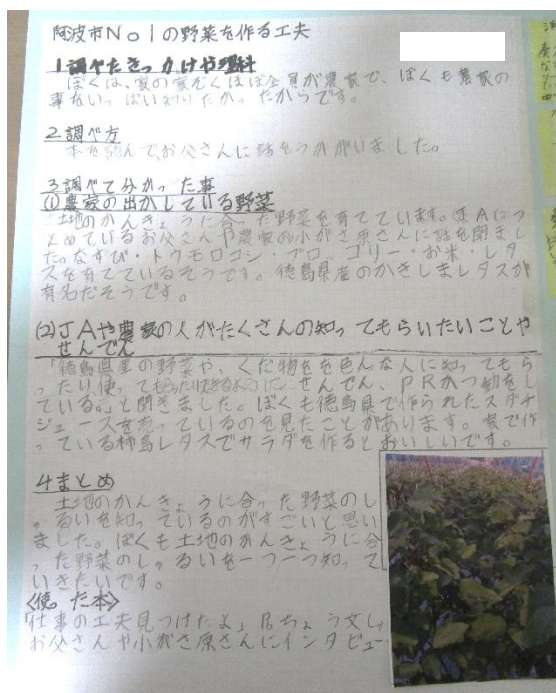
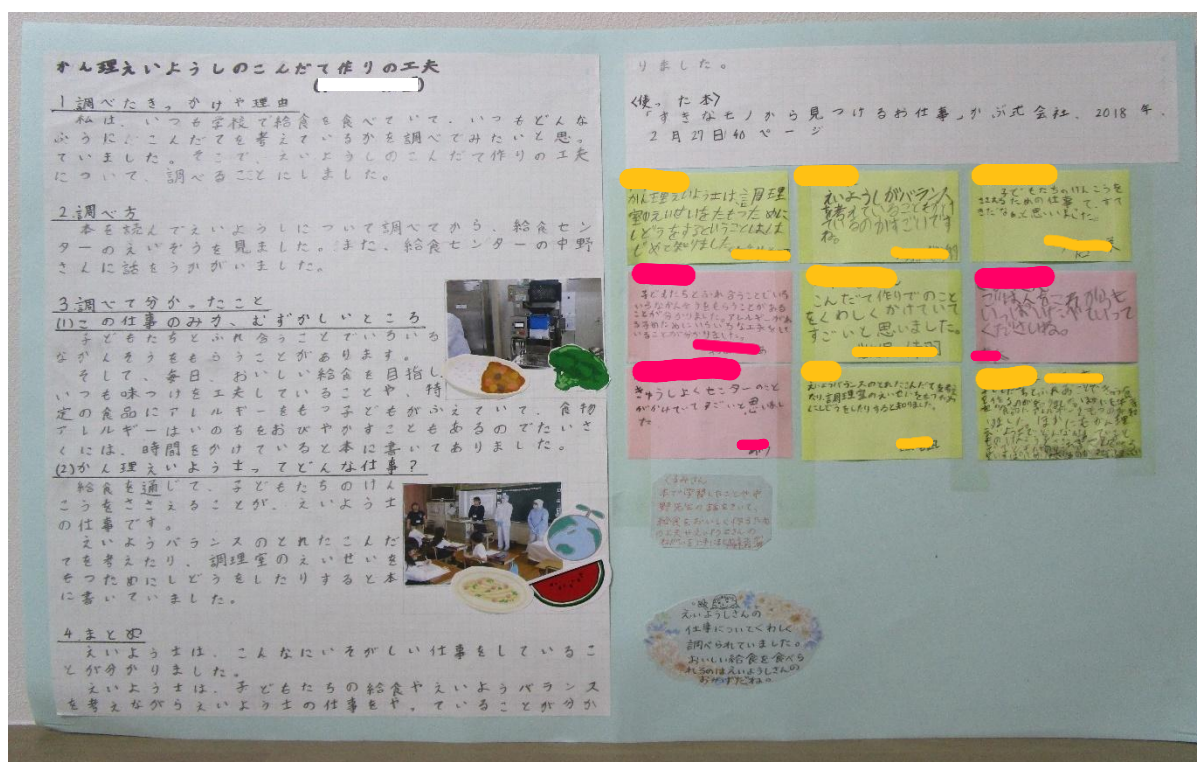
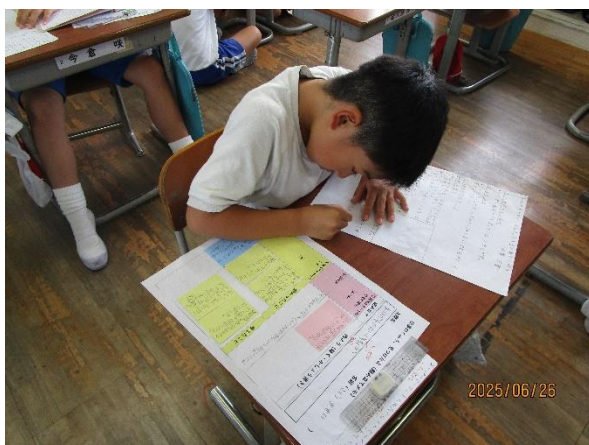
料理がおいしいお食事の工夫

組み立て	内よう（短く・かじょう書き）	
① 調べたきっかけ やその理由 はじめ	「おいしいお食事」といふ人から、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから。 「おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから。」	
② 調べ方	本で「調べ方」をみた。→ たていさんへのインタビュー	
③ 調べて分かったこと 中	分かったこと （1）このお食事の作りかたは、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから。 （2）このお食事の作りかたは、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから、おいしいお食事を作りたいから。	考えたこと おいしいお食事を作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー
④ まとめ おわり	おいしいお食事を作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー おいしいお食事を作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー	おいしいお食事を作るために、くち物を中に入れたい。たていさんへのインタビュー

○報告文を書く。

「調べたきっかけやその理由」「調べ方」「調べて分かったこと」「まとめ」の組み立てで、報告文を書いた。前時のメモを活用し、付け足しやさらに詳しく書きたいときには「アイラブマイタウン」の資料を活用した。学習者は、自分の組み立てメモを活用しながら、報告文を一生懸命に書くことができた。ここでも、モデルを提示し、学習者が参考にしながら、書けるように工夫した。また、学習者が、仕上がった報告文にイラストや ICT 機器を活用し

て撮影した写真を取り入れることにより、自身の発想を盛り込んだ自分だけの報告文を作成することができ、さらに達成感を抱くことができた。

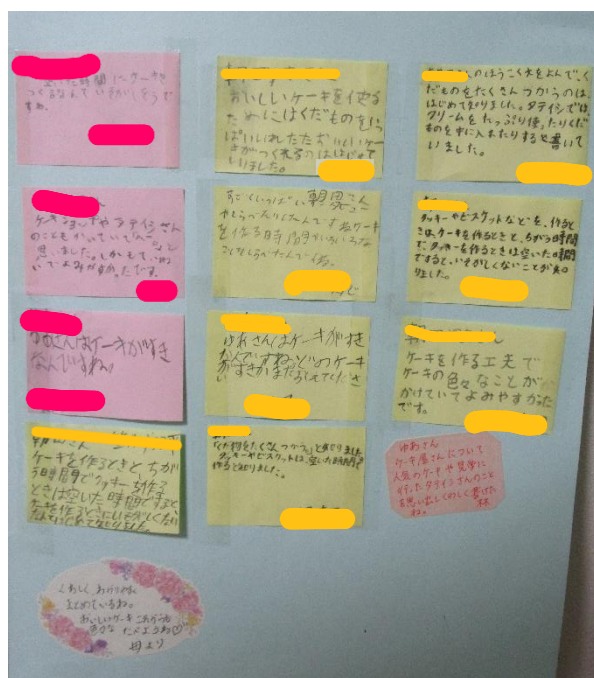
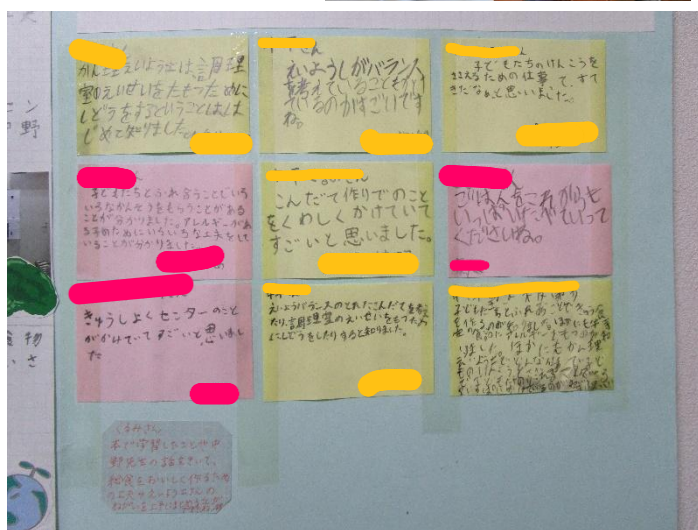


- ・報告文を書くときには、組み立てメモを参考にするように助言した。
- ・「はじめ」「中」「おわり」の構成で書くように指導した。
- ・符号などを学習し、読み手に分かりやすい報告文にするために活用するよう助言した。
- ・写真はICT機器を活用し、学習者が撮影したり、ファイルの中から選択したりできるようにした。
- ・学習者の中には、楽しく読んでもらえるようにイラストを工夫している者もいたため、全体に共有した。

③ 第3次 報告文を読み合い、感想を交流する。

ア 学級で報告文を読み合い、感想を交流した。

仕事の工夫について調べた報告文を、タブレットに取り込み、一人ひとりの報告文をじっくり読み合う時間を設定した。報告文を読んだ感想を付箋に書いて、交流することができ、達成感や満足感をもつことができた。学習者の感想からは、交流により、自分の表現力を高めたり、他の仕事について知ることにより仕事の工夫についての思考が深まったりした様子を考察することができた。

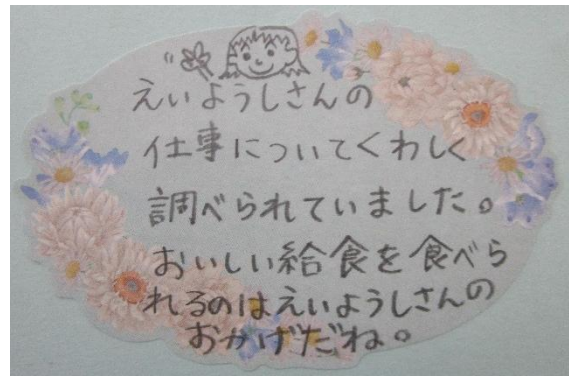
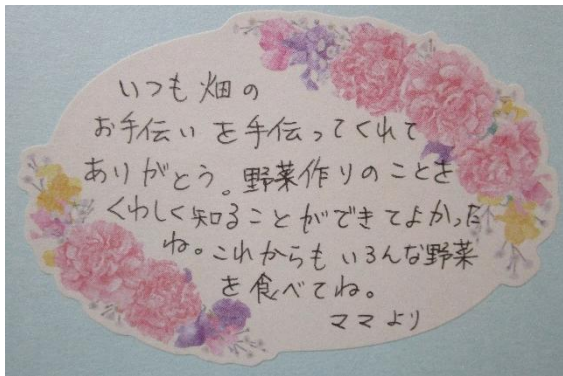


報告文を読んだ感想を付箋に記入した。学習者同士で報告文を交流し、感想をもらうことにより、とても嬉しそうな表情が見られた。

イ 家族の人に報告文を読んでもらい、感想を聞く。

仕上がった報告文を家族の人に読んでもらい、感想をメッセージカードに書いていただいた。個人懇談を活用し、メッセージカードに記入してもらったため、学習者は家族が何を書い

てくれているのか知らなかった。しかし、メッセージカードに気付くととても嬉しそうにメッセージを読んでいる学習者がおり、さらに達成感や満足感をもつことに繋がった。



(3) 書く活動における個別の学習を進めながら、友達と情報を共有したり自分の学びを深めたりする協働の学びになるような指導の工夫。

－国語科授業を支える取組（言語活動の整備）－

① 学校全体の取組

読書をするにより、語彙を増やしたり、思考力や表現力、想像力を高めたりすることができると考えた。そこで、学習者が楽しみながら様々な本を手に取り、進んで読書をするようにと読書活動の充実を図った。

ア 朝の読書（にじ色読書カード・たけのこの会による読み聞かせ）

読書活動を進めるために、本校では朝・業間・昼休みに図書室を開放している。にじ色読書カードを作成し、目標読書冊数に向けて読んだ本を記録できるようにしている。また、読書冊数に応じてカードの色が変わるなど読書環境に変化を加えることにより、本を読むことが苦手な学習者や一定の種類しか読まなかった学習者も読書環境を整えることで様々な分野の本を手にする姿が見られた。また、本校では、月1回たけのこの会による読み聞かせを行っている。地域の方が、各クラスで季節や行事にあった本の読み聞かせをしてくれており、学習者は「何の本読んでくれるかな。」と毎回楽しみにしている。読み聞かせの活動により、言葉に対する興味・関心を高めることに繋がっている。



イ 地域の図書館との連携

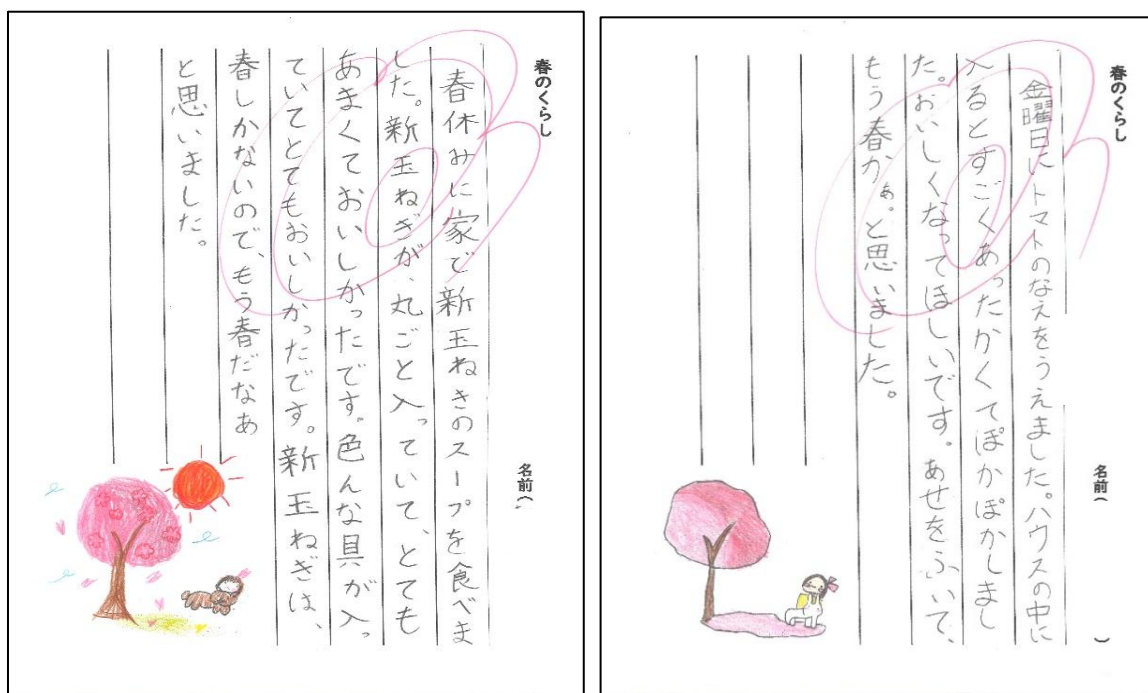
本校では、吉野笠井図書館と連携し、本を定期的に貸し出ししてもらったり、図書館の職員に図書室の本を整理していただいたりしている。国語科学習と並行読書ができるよう、学習に関連した本を集めていただき、様々な本を読んだり、仕事を調べたりすることができた。また、自分たちが読んでもらいたい本を「オススメする本」として廊下に掲示し、読書に興味をもてるようにした。



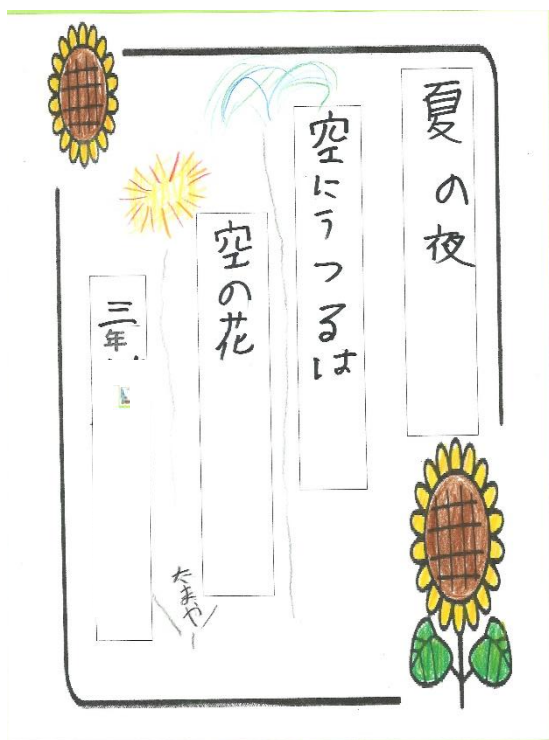
② 豊かな言語力を育む言語活動

ア 「春のくらし」(紹介文)・「夏のくらし」(俳句)

教科書に、「春のくらし」「夏のくらし」と季節の言葉の学習がある。教科書に出てくる季節の物や行事を写真やイラストで掲示するなど、学習者が親しみをもてるようにした。生活経験が少ない学習者もある。関連するニュースや新聞記事を紹介することで親しみをもてるようになった。また、『「さくら」のほかに「さくらもち」もあったよ。』など生活の中で他の言葉を見つけたり、日記に言葉を使ったりと言葉に対する興味・関心を高めることもできた。また、季節の言葉を使って、紹介文を書いたり、俳句を掲示したりすることで学習者同士が読み合い、自分の考えや気持ちを共有するきっかけにもなった。



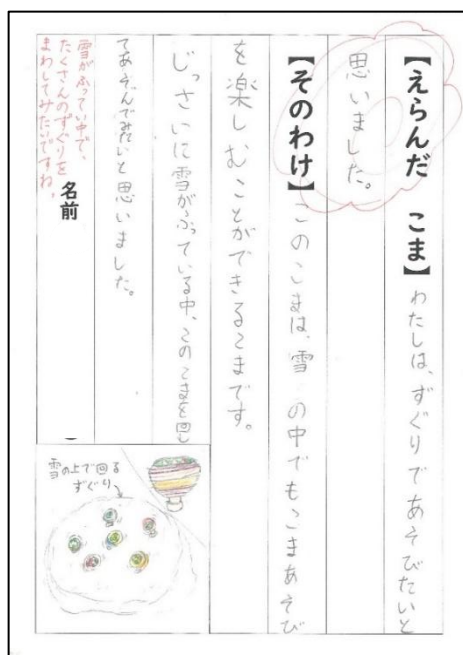
【春を感じるものの紹介文】



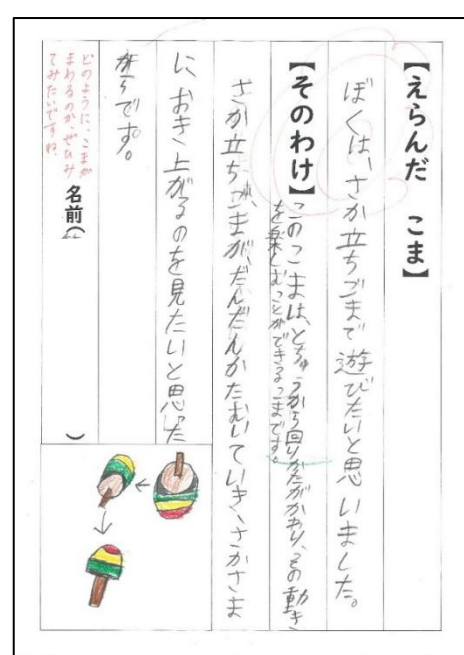
【夏を感じたことの俳句】

イ 「こまを楽しむ」 (紹介文)

教科書に、「こまを楽しむ」という説明文があり、説明文が「はじめ」「中」「終わり」で構成されている。構成をきちんと理解することにより報告文を組み立てるときに活用することができた。この学習では、「こま」は、軸を中心にバランスをとりながら回るという作りは同じであるが、回る様子や回し方のちがいで様々な楽しみ方があるということ知った。学習者は、「逆立ちごま」や「色変わりごま」などを実際に体験した。体験を通して、自分が「やってみたい」こまについて具体的に紹介し、発表するときにはその理由も体験を交えて明確に述べることができた。



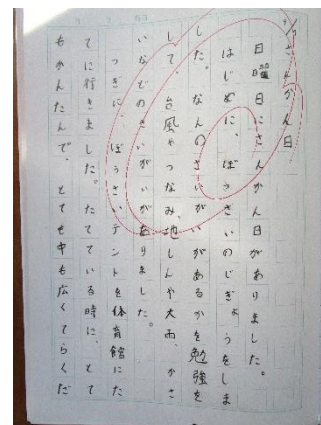
【ずぐりの紹介文】



【逆立ちごまの紹介文】

ウ 日記指導

書くことに慣れさせたいと思い、週2回、宿題として日記に取り組んだ。どんなことを日記に書けばよいのか分からない学習者もいると思われたため、日記の書き方の手引きを表紙に貼り、初めは日記のテーマを決めた。そのうち、出来事を振り返り、題材を選ぶことができるようになった。また、日記活動に取り組むことにより、文章を書くことが苦手だった学習者も、文章を書く場で鉛筆が止まることが少なくなってきた。



エ 国語辞典を活用した言葉のたから箱づくり

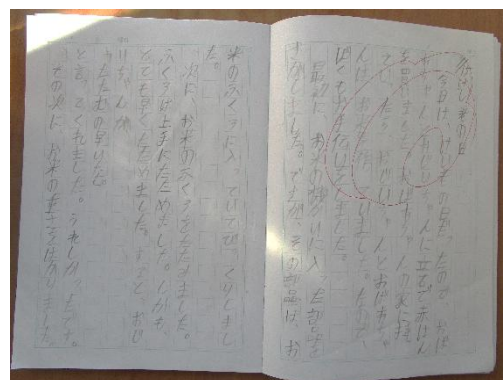
自分の思いや考えを的確に話したり、書いたりするために、学習者が使える語彙を増やしたいと考えた。そこで、国語科や他教科で学習した言葉の意味を国語辞典を使って調べる時間を設定した。学習者が、自ら分からなかった言葉の意味を調べることで、日記や物語を読んだ感想、また報告文などで活用しようとする姿が見られるようになってきた。



③ 国語科学習と関連した教室掲示、これまでの学習の足跡（学習の記録）の教室掲示

ア 国語科学習と関連した教室掲示

国語科学習と関連した新聞記事やニュースを口頭で紹介するだけでなく、教室に掲示した。また、旬の物や行事などを紹介することで、学習者は興味をもち、旬の食べ物の話を教師や友達と話したり、日記に書いたりすることも増えてきた。



イ これまでの学習の足跡（学習の記録）の教室掲示

学習したことをクリアポケットに入れて教室に掲示している。掲示を通して、学習者同士が見て読み合う、国語科で学習したことを振り返る、学習者同士で対話することなどにより、表現力や思考力を高める一助になっている。現在では、国語科だけでなく他教科で学習した足跡も掲示している。また、廊下にも掲示することにより、他学年の学習者の目にも留まっている。他学年の学習者に声をかけてもらう学習者もあり、嬉しそうにしている。今後も、学習者の意欲を継続させるために、続けていきたい。



【クリアポケットによる掲示】



【廊下：夏の俳句の掲示】

④ 個への支援

本学級には、書く活動に苦手意識をもっている学習者や、書きたいことがあっても何をどう書いたらよいのか戸惑っている学習者もあり、書く意欲や技能に個人差ある。そのため、個々への支援も必要だと感じた。

ア 机間支援や学習者相互の学び合い

指導者が机間支援を通して、困っている学習者には声かけをしたり、一緒にメモを書いたりすることで自分の考えや思いを書くことができた。

また、ペア学習やグループ活動を取り入れることにより、自分になかった視点や気づきを発見することにより、より繋がった。友達と意見を伝え合う中で様々な表現に触れ、表現力や思考力が高まってきている。国語科の学習だけでなく他教科でも実践していきたい。



イ 個別の書き込み型の手引きを活用した直接指導

書く活動を苦手としている学習者や書こうとしていても何をどう書いてよいかわからない学習者のために、個別の書き込み型の手引きを活用した。また、教師と一緒に考えることにより、自分が報告文に書きたいことが明確になり、まとめることができるようになってきた。また、構成では色分けし、「はじめ」「中」「おわり」の色を決めることにより、支援が必要な学習者にとって何をどれに書いてよいかわかる視覚的な支援になった。「書くこと」は、国語科だけでなく、他教科でも必要となってくる。そのために、今後も教材研究に取り組んでいきたい。

仕事のくふう。見つけたよ（組み立てメモ）			
☆題名		名前（土川 りえ）	
組み立て	内よう（短く、かじよう書き）		
① 調べたこと か やその理由	スーパーマーケットに行ったとき、どのように商品をならべるとか気になっていた。		
はじめ			
② 調べ方	本→見学→店長の木村さんにきた		
③ 調べて分かったこと	分かったこと	考えたこと	
中	(1) せんでんした商品の おき方 本「ちらしてせんでんする」と書いてあった。		
	木村さんの話 商品の前に「おすすめ品」のふだを立てている。 おすすめ品は、おきやく棚がよく通る場所に、てきとよくおくくようにして目立たせます。」		
④ まとめ	おすすめ品を目立たせるために、商品をおく場所や広さを考えていることにおどろいた。		
おわり			

はじめ

中

おわり

の方法や資料の扱いについては、今後工夫していきたい。

- (3) 協働学習や ICT 等を活用した学習形態を生かすことにより、書きたいことを具体化させることができ、伝えたかったことを読み手や聞き手に分かりやすく伝えることができた。グループ活動を取り入れることにより対話的な活動にも取り組んだ。グループ活動で話し合う中で、自分にはない考えに気づき、題材に対する見方・考え方も深まった。また、支援が必要な学習者が安心して活動に取り組めるように、合理的な配慮の視点に着目し、書く活動に ICT 等を個に応じて取り入れることにより、「書きたい」という気持ちをもって学習に取り組むことができるのではないかと考えた。

5 おわりに

本実践を通して、学習者は、ただ「報告文を書く」だけでなく、「自分が見つけたことや知ったことを書いた報告文を友達や家族に読んでもらいたい。」といった意欲をもって活動することができた。また、友達や家族からたくさんのコメントをもらい、「伝えたいことが伝わった。」、「書くことは楽しい。」、「頑張って書いてよかった。」と感ずることができた学習者もいた。このような経験を積み重ねることができるよう、今後も、自分たちが住んでいる阿波市や柿原について紹介するなど、学習者にとって魅力的な題材をもとにした報告文を書き、他学年の学習者や家族に紹介する取組をしていきたい。そして、学習者が、様々な人との関わりや体験を通して主体的に学び、視野を広げるとともに、一人一人の言語能力がさらに豊かなものになることを目指して、これからも実践を重ねていきたい。